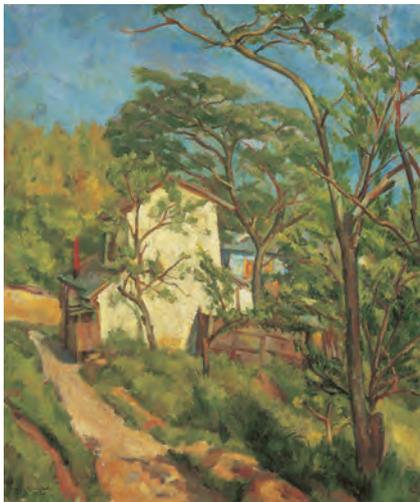


大阪の洋画

2021年6月12日(土)－8月15日(日)

山内愚僊に始まる大阪の洋画は、松原三五郎、赤松麟作が画壇の基礎を形成した後、小出樞重らがモダニズムの新風を巻き起こし、画壇にさらなる活気をもたらしました。大阪近代を彩った洋画家たちの軌跡をふりかえり、戦後へ続く流れをたどります。



国枝金三《せんだんの木のある家》
大正10年(1921) 本館蔵

秀麗精緻 明清時代の工芸

2021年6月12日(土)－8月15日(日)

特別展「揚州八怪」の開催にあわせ、館蔵・寄託品から中国明・清時代の工芸品をご紹介します。色彩豊かで秀麗



《豆彩 蓮池鸞鶴文鉢》
中国 清時代・道光期(1821-50)
本館蔵(原尻氏寄贈)

な陶磁器をはじめ、精緻な表現が施された彫漆・螺鈿など揚州八怪らの目をも楽しませたかもしれない工芸の数々で、文人世界の一端を追体験します。

特集展示

美の殿堂の85年

大阪市立美術館の展示室

2021年6月12日(土)－8月15日(日)

当館は2022年度以降に大規模な改修を計画しています。ここではあえて作品を展示せず、昭和11年(1936)開館当時の面影を留める展示室と展示ケース自体をご覧ください。85年の歴史を偲びつつ、新たな美術館の姿に思いをはせる、またとない機会です。改修を前に、感謝と期待を込めて。



《大阪市立美術館 展示室》
昭和11年(1936)開館

小出三郎

2021年7月13日(火)－8月15日(日)



小出三郎《木の根》 昭和32年(1957)
本館蔵(小出君子氏寄贈)

小出三郎(1908-67)は大阪市出身の洋画家です。天王寺中学校卒業後、信濃橋洋画研究所で指導を受け、戦前、戦後を通じて独立展で活躍しました。近年寄贈を受けた小出三郎の風景、裸婦などの油彩作品と関係資料をご紹介します。

社寺縁起 — 聖なるファンタジー

2021年9月4日(土)－10月24日(日)

社寺草創の由来、祀られた神仏の霊験を語るさまざまな社寺縁起関連作品を、館蔵および寄託作品あわせて大公開します。神仏と人との間に起こった摩訶不思議な出来事＝聖なるファンタジーの世界をどうぞお楽しみください。



《大寺縁起絵巻》(下巻・部分) 江戸時代・17世紀 本館蔵(田万コレクション)

いぐち きんどう 井口古今堂と近代大阪

— 船場の表具師と芸術ネットワーク —

2021年9月4日(土)－10月24日(日)

井口古今堂は、天保元年(1830)曾根崎に創業し、慶應年間から船場を拠点として5代にわたって活躍した表具の老舗です。住友家、藤田家をはじめ在阪名家の仕事を多数手掛けました。またみずからも画事、煎茶、俳諧などひろく文芸に通じ、コレクターや船場の画家たちが出入りする文化サロンとしての役割をも演じました。近年の調査の成果を踏まえ、井口古今堂を中心とした近代大阪の芸術文化の躍動をご紹介します。